

国内マグネシウム 2020 年需要実績/2021 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会
(単位：トン)

分類\年	2015	2016	2017	2018	2019	2020 実績	20/19 比 実績	2021 予測	21/20 比 予測
ダイカスト	5,800	5,300	4,800	5,200	5,100	4,700	92.2%	5,100	108.5%
鋳物	70	70	70	130	190	100	52.6%	100	100.0%
射出成形	300	400	480	960	1,200	960	80.0%	1,200	125.0%
展伸材	750	750	770	800	800	700	87.5%	800	114.3%
その他合金	230	200	230	400	300	200	66.7%	300	150.0%
構造材小計	7,150	6,720	6,350	7,490	7,590	6,660	87.7%	7,500	112.6%
アルミ合金添加	20,800	21,500	22,000	17,100	17,000	14,500	85.3%	16,500	113.8%
鉄鋼脱硫	5,600	5,500	5,500	4,000	4,140	3,000	72.5%	3,500	116.7%
ノジュラー鋳鉄	2,200	2,500	2,600	2,700	2,700	2,520	93.3%	2,600	103.2%
チタン製錬	1,000	800	600	700	1,010	1,000	99.0%	300	30.0%
化学・触媒	2,200	2,100	1,800	1,800	1,500	1,350	90.0%	1,500	111.1%
添加材小計	31,800	32,400	32,500	26,300	26,350	22,370	84.9%	24,400	109.1%
防食その他	1,200	950	990	1,100	925	1,000	108.1%	1,000	100.0%
内需小計	40,150	40,070	39,840	34,890	34,865	30,030	86.1%	32,900	109.6%
輸出	1,158	600	227	258	225	102	45.3%	100	98.0%
総需要	41,308	40,670	40,067	35,148	35,090	30,132	85.9%	33,000	109.5%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。

<2020 年の需要実績>

- ①2020 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 12.3%減の 6,660 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量が同 15.1%減の 22,370 トン、防食その他向けが同 8.1%増の 1,000 トン、輸出が同 54.7%減の 102 トンとなり、全体では 30,132 トンで同 14.1%減となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、特に我が国において緊急事態宣言が発出された 4 月以降に生産量が大きく減少した。秋頃からは回復基調となっているが、いずれの分野も前年からは 1-2 割程度の減少での推移となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要の内訳は、ダイカスト部門が前年比 7.8%減の 4,700 トン、鋳物部門が同 47.4%減の 100 トン、射出成形部門が同 20.0%減の 960 トン、展伸材部門が同 12.5%減の 700 トン、その他合金が同 33.3%減の 200 トンとなった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要の内訳は、アルミ合金添加部門が前年比 14.7%減の 14,500 トン、鉄鋼脱硫部門が同 27.5%減の 3,000 トン、ノジュラー鋳鉄部門が同 6.7%減の 2,520 トン、チタン製錬部門が同 1.0%減の 1,000 トン、化学・触媒部門が同 10.0%減の 1,350 トンとなった。
- ④防食その他は、前年比 8.1%増の 1,000 トンと、全項目で唯一増加での推移となった。数量のうち約 100 トンが防食向けの需要で、これはほぼ横ばいでの推移となり、その他の特殊な用途の需要量が増加することとなった。
- ⑤地金の輸出は財務省貿易統計の数値によるもので、純マグネシウム地金が約 2 トン、マグネシウム合金地金が約 100 トンなり、前年比 54.7%減となった。

<2021 年の需要予測>

- ①構造材向けの需要は、2020 年後半から回復基調となっている。需要量の多い自動車分野では、国内生産台数が増加の見込みがあるメーカーもあるなど、マグネシウム合金の需要も各分野において 2019 年並みへの回復が期待される。ダイカスト、射出成形、展伸材、その他合金は、それぞれ 5,100 トン、1,200 トン、800 トン、300 トンと 2019 年並みに回復、鋳物は横合いの 100 トンと予測し、合計は前年比 12.6%増の 7,500 トンになるものと予測した。
- ②添加材向けの需要も、2020 年後半から回復基調となっており、2019 年に近づく需要量に回復することが期待される。アルミ合金添加が 16,500 トン、鉄鋼脱硫が 3,500 トン、化学・触媒が 1,500 トンと前年 10%強に回復、ノジュラー鋳鉄が微増の 2,600 トンと予測した。チタン製錬については、航空機需要の回復が遅れると見られ 300 トンに減少するものと予測した。合計では 24,400 トン、前年比 9.1%増と予測した。
- ③防食その他、輸出はほぼ横ばいで推移するものと予測した。
- ④2021 年の国内マグネシウム総需要量は、2019 年の水準までとはいかないものの、2020 年からは回復し、33,000 トン、前年比 9.5%増になるものと予測した。